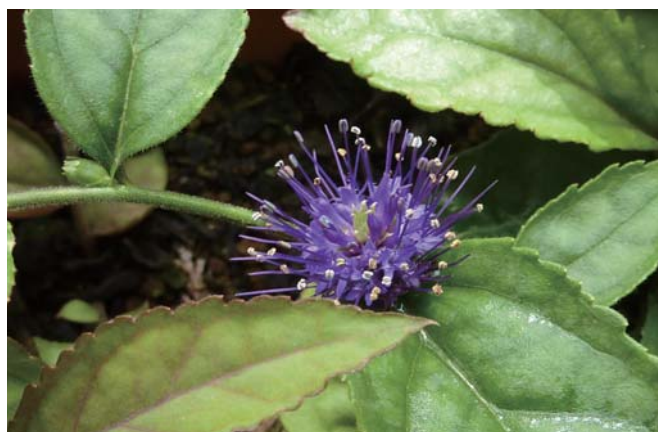


千葉県の保護上重要な野生生物 —千葉県レッドデータブック— 追録

第1号訂正版（平成23年3月）



スズカケソウ

目次

目次	1
本追録の位置づけ	2
最重要保護生物の追加指定：スズカケソウ	3
重要保護生物の追加指定：アカフユノハナワラビ	3
訂正：バアソブの写真	4
おしらせ	4

本追録の位置づけ

○ 本追録の位置づけ

千葉県では、保護すべき貴重な野生生物のリストである「千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-」および「千葉県レッドリスト」をおおむね 5 年の間隔で発行してきました。しかし、毎年のように未記録の野生植物の発見が報告され、5 年の間隔では緊急時に対応できないことが明らかとなってきました。そこで年一回、レッドデータブック・レッドリスト掲載種の追加、ランク変更、削除等を行い、追録として公表することとなりました。

本追録は、緊急を要する絶滅危惧生物のランクの改訂等を掲載し、広く県民に最新の情報を伝えることを目的としています。このため、冊子体のほかインターネットによる公開を行います。

○ レッドデータランク等について

本冊子でランク変更、追加、削除がなされた種については、本冊子の記述が優先し、以前に発行された「千葉県レッドデータブック」および「千葉県レッドリスト」の記述は無効となります。

○ 今号の内容

今号では「千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック- 植物・菌類編 2009 年改訂版」について下記の改訂および訂正を行いました。

- 1) スズカケソウ、アカフユノハナワラビを追加指定。
- 2) バアソブの写真を訂正。

今回の改訂の結果、植物・菌類の指定種数は種子植物のカテゴリー A が 116 種、シダ植物のカテゴリー B が 20 種となりました。

千葉県レッドデータブックのカテゴリー (参考)

X 消息不明・絶滅生物

かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期（およそ 50 年間）にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性の強い生物。すでに保護の対象外となったかに見える生物であっても、将来、他の生息・生育地からの再定着や埋土種子の発芽などにより自然回復する可能性もありうるため、かつての生息・生育地については、現存する動植物と共に、その環境の保全に努める必要がある。

EW 野生絶滅生物

かつては千葉県に生息・生育していた生物の種類が、野生・自生では見られなくなったにもかかわらず、かつて千葉県に野生していた個体群の子孫が、飼育・栽培などによって、維持されているもの。特に埋土種子や埋土胞子などから再生した個体がありながら、本来の自生地では環境の変化によって生息・生育が維持できない状態の生物。このカテゴリーに該当する種類の本来の生育地での存在をおびやかす要因は最大限の努力をもって軽減または排除し、本来の自生地、あるいはその代替地において持続的に生活できるように図る必要がある。

A 最重要保護生物

個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境変化の危機にある、などの状況にある生物。放置すれば近々にも千葉県から絶滅、あるいはそれに近い状態になるおそれがあるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最大限の努力をもって軽減または排除する必要がある。

B 重要保護生物

個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどで環境変化の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリー A への移行が必至と考えられるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は可能な限り軽減または排除する必要がある。

C 要保護生物

個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境変化の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、将来カテゴリー B に移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最小限にとどめる必要がある。

D 一般保護生物

個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境変化の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、将来カテゴリー C に移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないよう注意する。

参考資料：RH 保護参考雑種

省略

A スズカケソウ ゴマノハグサ科

最重要保護

Veronicastrum villosulum (Miq.) T.Yamaz.

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【種の特性】多年生草本。溪谷の崖に生え、茎は下垂し長さ 70cm ほど、茎の先端は新苗となる。葉は単葉で互生し、枝とともに冬を越して春に枯れる。葉の裏はしばしば紅紫色を帯びる。枝は葉柄とともに開出した褐色の毛がある。虫媒で風散布と考えられるが、千葉県では結実の確認されていない。花は 6 月、葉腋に一個つつの円錐状の短い花序をつける。花冠は青紫色で基部は管状で内面に白毛がある、花冠の先端は短く 4 裂し開出。雄しべは 4 本で花冠より短い。花柱はやや桃色を帯び花冠とほぼ同長。[HH]

【分布】本州(岐阜県一絶滅一)・四国(徳島県)、中国(安徽省・江西省・浙江省)。

【県内の状況】2009 年いすみ市で発見された。

【保護対策】江戸時代には観賞用に栽培され、飯沼慾齋の草木図説などに図が見られる。中国では寄生虫病の薬として使われている。日本には薬用植物として渡来し、後に観賞用に転化したとも考えられる。現在、園芸店で観賞用として鉢植えが販売されており、栽培目的の盗掘が懸念される。日本における野生状態のものは栽培品からの逸出の可能性もあり、今後研究の必要があるが、真の自生である可能性を考え、最重要保護とする。盗掘の可能性に配慮し、分布図は省略する。

【文献】山崎敬 1970 植物研究雑誌 28(10):319-320 / 野口昭造ほか 2009. 千葉県植物誌資料 25:233-235.

【写真】2010.07.14 千葉県いすみ市 大場達之

(大場達之)



B アカフユノハナワラビ ハナヤスリ科

重要保護

Sceptridium ternatum (Thunb.) Lyon var. *pseudoternatum* Sahashi

【種の特性】冬緑性。栄養葉はフユノハナワラビによく似ているが、冬季に紅変する。フユノハナワラビとアカハナワラビの中間的である。両者の分布している所に見られることが多い。雑種であるとする説もある。[G]

【分布】本州の中北部や伊豆大島。

【県内の状況】1988 に佐倉市飯塚・西御門で小崎昭則氏の記録がある。生育状況等の様子が不明で、近年ほとんど生育が確認されなかったが、2007 年頃から県の中北部で確認されるようになった。(RDB2009 p.38 参照) さらにアカハナワラビの分布調査を精査している中で、佐倉市・印西市(旧本埜村)の落葉樹の林床や印西市(旧印旛村)の寺の境内でアカハナワラビに混生している本種が確認された。個体数は極めて少ない。

【保護対策】比較的明るい落葉広葉樹林に生育が見られるので、その環境の維持に努める。特にフユノハナワラビやアカハナワラビの分布している林下は環境維持に努める必要がある。

【文献】倉田・中池(編)1994. 日本のシダ植物図鑑 7:247 / 倉俣ほか 2009. 千葉県植物誌資料 25:243-245

【写真】2010.3.6 印西市(旧本埜村) 村田威夫

(村田威夫)



最重要保護

重要保護

訂正

千葉県保護上重要な野生生物 植物・菌類編
2009年度改訂版 210 ページ バアソブの写真が編集
の手違いでツルニンジンの写真になっておりました。
お詫びいたします。またバアソブの解説文中、バアソ
ブとツルニンジンの花冠内部の
色彩の記述が逆になっておりました。正しくは、花冠内部の上
方が濃紫色となるのがツルニン
ジン、花冠内部の上方に褐紫色



バアソブ 【写真】 2010.8.18 印西市 竜腹寺 寺村敬子

お知らせ

◆ 植物・菌類編正誤表の発行について

2009年3月発行の「千葉県レッドデータブック
植物・菌類編」2009年改訂版の正誤表が発行されてお
ります。お手元に無い場合には、千葉県生物多様性セ
ンターまでお問い合わせ下さい。
(電話 043-265-3601)

◆ ダウンロードについて

2009年3月発行の「千葉県レッドデータブック
植物・菌類編」2009年改訂版および正誤表は全文がウエ
ブサイト上に公開され、pdfファイルとしてダウンロー
ドすることができます。詳しくは下記のURLをご覧下
さい。 <http://www.bdcchiba.jp/endangered/>

千葉県の保護上重要な野生生物 -千葉県レッドデータブック- 追録第1号訂正版 (平成23年3月)

2011年3月発行

編集 千葉県レッドデータブック改訂委員会

発行 千葉県環境生活部自然保護課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号

電話 043-265-3601 / ファックス 043-265-3615 (千葉県生物多様性センター)

URL <http://www.bdcchiba.jp/>